

地元就職へ思い強く

岩手大と
県立大学生
事業所見学し懇談

奥州

奥州市は24日、県内の4

大学や自治体など産学官が連携し学生の地元定着や人材育成に取り組む「ふるさと」といって創造協議会」(会長・岩淵明岩手大学長)と、事業所見学バスツアーを行った。岩手大と県立大の学生、大学院生22人が市内の事業所を見学し、岩手で働くことの魅力に触れた。

見学先は企業3社と同市役所。同市前沢区高畑の精密機械器具製造業デジアイズでは、主力製品のレジスタや包装機の製造ライン



を見学した後、岩手大卒の若手社員と懇談した。

学生は、就職先を決めた理由や実際の業務内容などについて質問。

若手社員から「県外の企業も受けたが、やっぱりなじみのある土地で働きたか

った」などの答えを受け、地元就職へのイメージを膨らませていた。

バスツアーは文科省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択された「ふるさと」といって創造プロジェクト」の一環。今後、一関、北上、花巻の3市でも行う。

岩手大3年の赤司寧乃さん(20)は「県外出身だが岩手での就職を考え、参加した。地元を大切に思う人材を雇用するなど、地方の職場にしかできないことがあると感じた」と話していた。

デジアイズの若手社員(左)と懇談する学生

岩手日報2016年8月25日付朝刊

※この記事・写真は、岩手日報社の許諾を得て転載しております。